REFERENCE NOTE

「地下アイドル」の定義整理資料

社内整理・検証の共有資料　／　公開定義・論考29件の調査にもとづく　／　2026年8月・公開版

本資料は、株式会社ツギステが社内で行った「地下アイドル」の定義の整理・検証を共有するためのものです。公開されている定義・論考の調査にもとづく仮説的な整理で、学術的な発表資料ではありません（確定的な定義の提示も意図していません）。学術的な典拠として参照できるのは、原文確認済みの学術文献（出典一覧No.9・No.10）のみです。

定義（本資料の作業定義）

> 地下アイドルとは、ライブの現場を活動の中心とし、チェキ会・特典会などライブに付随するファンとの直接的な交流を収益の軸とする、ファンとの距離の近いアイドルの総称です。[1]

整理（変遷と現状）

今日の用法では、上記の定義は「ライブアイドル」とほぼ重なるとみられます[2]。本資料では、メジャーデビューの有無を判定に用いていません。配信流通の普及により、メジャーデビュー済みでも活動の実態は小規模なライブ中心という例が珍しくなく、契約の有無が実態を説明しにくくなってきていると考えられるためです。

もっとも、この言葉が指す範囲は、当初から一定していたわけではありません。語の初出は2000年代初頭に遡り（新聞紙上での使用は2002年6月の読売新聞まで確認されています[3]）、当時は文字どおり「地下」のライブハウスを拠点とすること、そして「地上波」に出ないことを指す、場所と露出の概念であったとみられます[4]。その後、接触ビジネスの一般化や配信流通の普及といった産業構造の変化に伴って言葉の指す範囲は広がったと考えられ、今日では、活動の実態（現場中心・接触中心）を指す用法[5]、規模や知名度を指す用法[6]、メジャーデビューを目指す途上という本人の志向を指す用法[7]が併存しています。どこまでを「地下」と呼ぶかは論者によって異なり、学術研究には「メジャーレーベル所属の地下アイドルも多数おり、レーベルの有無は基準にならない」と明示するものもあります[8]。実際、ネット上の用語解説・報道・研究・当事者の公開定義29件を確認した範囲でも、「明確な定義はない」と明記するものが複数あり、判定基準は立場ごとに分かれていました[9]。

なお「地下アイドル」という呼称は、当事者が自ら名乗ることもあれば、呼ばれること自体に抵抗を示す人もおり、受け取り方に幅があります[10]。侮蔑になるという記述には「地上波放送を目指している人たちにとって」という限定が付き、「ライブアイドル」への言い換えも当事者の側が積極的に使い始めたとされます。当事者に向けて用いる場合は、相手がどう受け取るかを確かめるのがよいと考えています。

注（主張ごとの出典）

1. **[1] 共通核（現場中心・距離・接触）**：収集29件中、「ライブの現場中心」約20件・「ファンとの距離・接触」約14件で最多（集計は図2・概数）。学術文献では馬場2021（No.9）・上岡2021（No.10）が同旨。当事者側では姫乃たま2017（No.7・「物差しは知名度よりファンとの距離感」）。使用実態の例＝Wikipedia（No.1）、imidas 2016（No.4）。
2. **[2] ライブアイドルとの重なり**：Wikipediaでは「地下アイドル」は「ライブアイドル」へのリダイレクト（No.1）。ただしKAI-YOU（No.6）は「同義かは議論が分かれる」と付記。
3. **[3] 初出**：bxjpによる用語史調査（No.23）が読売新聞2002年6月22日の用例を最古と確認。※新聞原紙は未確認（二次資料経由）。論文掲載時は原紙の一次確認を推奨。
4. **[4] 語源＝場所と露出の概念**：新語時事用語辞典（No.2・地下のライブハウス由来）、bxjp（No.23・物理的地下と「地上波の対義」の二重の意味）、宮入・佐藤2011（No.12・90年代にテレビ出演機会を失いライブハウスへ移行）。
5. **[5] 実態を指す用法**：ネット上の用語解説のほぼ全件（No.1〜6）および学術系（No.9・10ほか）。
6. **[6] 規模・知名度を指す用法**：kamaidol 2019（No.26・「約2000人規模の継続動員＋地上波レギュラー」の定量基準）、現代ビジネス2019（No.17・武道館等との対比）、弁護士ドットコム2017（No.20）。
7. **[7] 志向を指す用法**：かべのおく2024（No.22）、乙川杏珠2022（No.25）＝いずれも「地下＝メジャーを目指す途上」とする当事者・ファン側の用法。
8. **[8] レーベル基準の否定**：馬場伸彦2021（No.9・原文PDF確認済み）。
9. **[9] 「明確な定義はない」の明記**：毎日新聞2013（No.16・No.23記事内の引用による確認＝原紙未確認）、KAI-YOU（No.6）、乙川2022（No.25）、リアルサウンド2015（No.19）。
10. **[10] 呼称の受け取られ方**：中心的な典拠は馬場2021（No.9・原文PDF確認済み）。同論文が引用する姫乃たま『潜行』2015 p.25（No.8）の文で「地上波放送を目指している人たちにとって」侮蔑になる、という限定を確認した（書籍原本は未確認）。馬場2021は同じ箇所で、2010年代に当事者側が「ライブアイドル」の呼称を積極的に使い始めたと記述。語の出自＝bxjp（No.23・2002年当時「誰が言い出したのかわからない」／テレビ局側からの提示）。自称の例＝姫乃たま2017（No.7・書名『職業としての地下アイドル』）。呼称への抵抗＝な 2024（No.27）、リアルサウンド2015（No.19）。※2026-08-05版では「基本的に他称」と記述していたが、原文確認の結果、限定を落とした過度な一般化のため改めた。

図1　定義による整理（2×2）

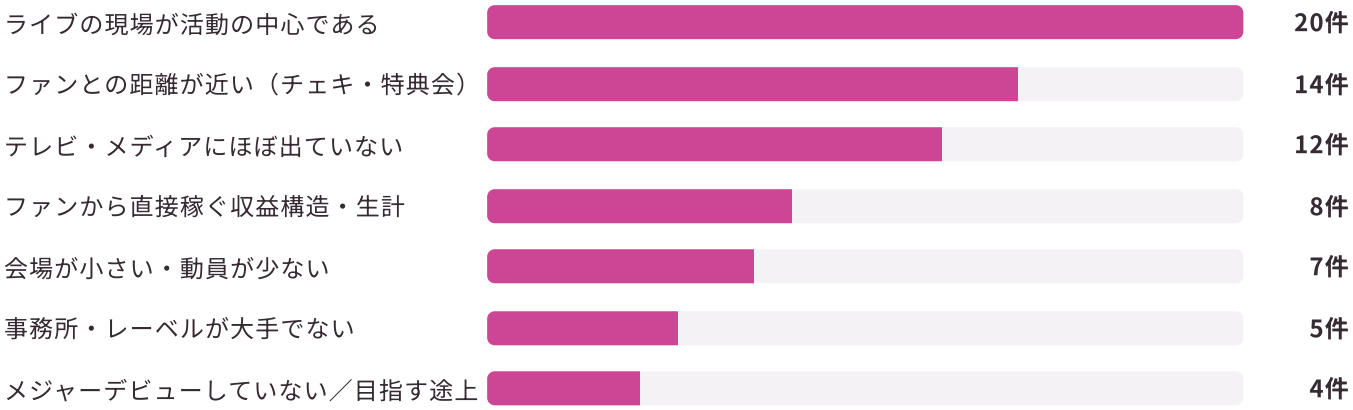
上段（ファンとの直接的な関係で活動が成り立っている層）が、当社の定義する「地下アイドル」の範囲にあたります。世間の呼び方は、認知度が上がるにつれて割れていきます。

	広く知られていない（認知度 低）	広く知られている（認知度 高）
ファンとの直接的な関係で**成り立っている**	**核：多くの人が「地下アイドル」と認識** 呼び方がほぼ割れない中心（当社の観察による整理） ライブハウス型 / 自主運営型 / 常連ファン密着型 / メジャーデビュー済み型 / ご当地アイドル※ / 大手事務所の新人※ ※定義には合致するが、地域性・「大手」のイメージなど認知度以外の理由で呼び方が割れる	**呼び方が割れる層** 稼ぎ方は同じまま、有名になった層 大型ライブアイドル / 握手会型の有名グループ 世間は「有名だから地下じゃない」、構造で見る人は「稼ぎ方は地下と同じ」――ここが最も割れる
ファンとの直接的な関係で**成り立っていない**	**デビュー準備中・希望者** 活動が始まる前の段階。支えるファンもこれからで、「地下アイドル」とは呼ばれにくい	**メジャーアイドル** 広告・楽曲・番組で稼ぐ。「地下」とは呼ばれない

類型は例示であり、網羅ではありません。区分は当社の支援実務の観察にもとづく概念整理で、測定値ではありません。

図2　公開定義29件は、何を基準にしているか

ネット上の用語解説6件／学術・書籍9件／メディア記事6件／当事者・ファンの論考8件をWeb調査で収集し、各定義が使う判定基準を集計しました（複数計上あり。出典は6〜7頁の一覧）。2026年8月時点のWeb検索による探索的な収集で、網羅的な調査ではありません。件数は要旨の分類による概数です。



※メジャーデビュー基準は少数派です。学術には「レーベルの有無は基準にならない」と明示する論文もあります（馬場2021）。一方、当事者・ファンの間では「メジャーを目指す途上か」という志向の形で使われ続けています。

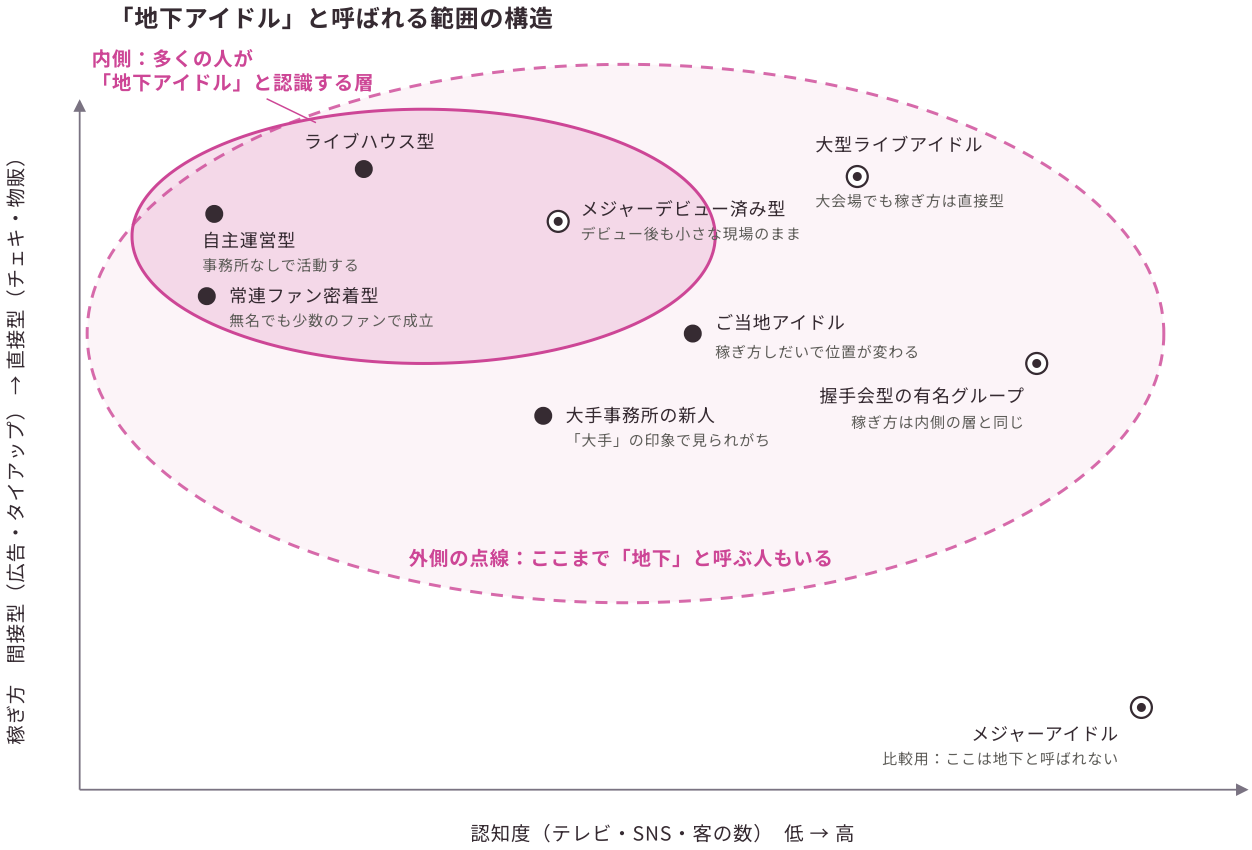
立場によって、使う物差しが違う

判定基準	ネット用語解説	学術・書籍	メディア	当事者・ファン
ライブの現場が中心	●	●	●	●
ファンとの距離・接触	◐	●	●	●
テレビ・メディア露出	●	◐	●	◐
収益構造・生計	–	◐	◐	●
会場規模・動員	◐	◐	◐	◐
事務所・レーベルの規模	◐	◐	–	◐
メジャーデビューの有無・志向	–	–	–	●

●＝主要な基準として使う　◐＝補助的に使う　–＝ほぼ使わない　※学術・書籍にはこの基準を明示的に否定する論者もいる（馬場2021）

① どの立場もほぼ共通で使う核は「現場中心×ファンとの距離」――本資料の定義は、この最大公約数を言語化したものです。
② 「メジャーデビューの有無」は全体では少数派の基準ですが、当事者・ファンの間では「目指す途上か」という志向の形で生きています。
③ 複数の出典が「明確な定義はない」と明記しています――単一の線ではなく「核＋幅」で示す整理が実態に合うと考えています。

参考図　類型マッピング（概念図）



◎＝メジャーデビュー済み（大手レコード会社から作品あり）　　チェキ会＝ファンと1対1で撮影・会話できる有料の場
※位置はおおよそのイメージ（支援実務の観察にもとづく概念図）

参考図　類型マッピング。横軸に認知度、縦軸に稼ぎ方（間接型→直接型）をとった概念図です。実線の内側＝多くの人が「地下アイドル」と認識する核、点線まで＝見る人によって呼び方が割れる範囲。位置は当社の支援実務の観察にもとづく相対配置で、測定値ではありません。

出典一覧（1／2）

確認水準：◎＝原文（Webページ/PDF）を直接確認済み　△＝二次資料経由の重引（孫引き）・原本未確認。論文への引用時は原本・原紙のご確認をお願いします

No.	出典	種別・年	確認	URL・確認元
A. ネット上の用語解説（Web辞書・ネット百科・用語ページ）				
1	Wikipedia日本語版「ライブアイドル」（「地下アイドル」はリダイレクト）	ネット百科	◎	ja.wikipedia.org/wiki/ライブアイドル
2	新語時事用語辞典「地下アイドル」	辞典（Weblio）	◎	weblio.jp/content/地下アイドル
3	実用日本語表現辞典「地下アイドル」	辞典（Weblio）	◎	同上ページ併載
4	imidas 時事用語事典「地下アイドル」	事典・2016	◎	imidas.jp/genre/detail/N-101-2269.html
5	ニコニコ大百科「地下アイドル」	ネット百科	◎	dic.nicovideo.jp/a/地下アイドル
6	KAI-YOU 用語ページ「地下アイドル」	メディア用語辞典	◎	kai-you.net/word/地下アイドル
B. 書籍・学術系				
7	姫乃たま『職業としての地下アイドル』朝日新書	書籍・2017	△	CiNii図書 BB24427408（書誌・書評経由）
8	姫乃たま『潜行 地下アイドルの人に言えない生活』サイゾー	書籍・2015	△	馬場2021 p.8の引用（原本p.25）経由
9	馬場伸彦「地下アイドルの現象学――『状況的空間』としてのライブハウス」甲南女子大学研究紀要 I 57号 pp.7-14	紀要論文・2021	◎	CiNii CRID 1050006076275633664（PDF全文）
10	上岡磨奈「アイドル文化における『チェキ』――撮影による関係性の強化と可視化」三田哲學會『哲學』147集 pp.135-159	学術論文・2021	◎	慶應義塾大学 KOARA（PDF全文）
11	岡島紳士・岡田康宏『グループアイドル進化論』マイコミ新書	書籍・2011	△	馬場2021 p.8注7（原本p.100）経由
12	宮入恭平・佐藤生実『ライブシーンよ、どこへいく』青弓社	書籍・2011	△	馬場2021 p.8注6（原本p.124）経由
13	さやわか『僕たちとアイドルの時代』星海社新書	書籍・2015	△	馬場2021 p.9／上岡2021 pp.145-146 経由
14	濱野智史「地下アイドル潜入記 デフレ社会のなれのはて」『新潮45』2013年8月号 pp.212-219	雑誌論考・2013	△	上岡2021 p.140 経由
15	立命館大学 大山ゼミ「メディアが生み出した『地下アイドル』とイメージ消費」	研究発表・2023	◎	ritsumei.ac.jp（発表ポスターPDF）

出典一覧（2／2）

No.	出典	種別・年	確認	URL・確認元
C. メディア記事系				
16	毎日新聞（用語注釈）	新聞・2013-09-17	△	No.23記事内の引用経由（原紙要確認）
17	現代ビジネス・碓井広義「NHK『だから私は推しました』が描く『地下アイドルのリアル』」	Web記事・2019	◎	gendai.media/articles/-/67060
18	ぴあ映画（リアルサウンド転載）・成馬零一	Web記事・2019	◎	lp.p.pia.jp/article/news/71806
19	リアルサウンド「アイドルとアーティストの境界はどこに？ 地下アイドル・姫乃たまが考える」	Web記事・2015	◎	realsound.jp/2015/04/post-3083.html
20	弁護士ドットコムニュース「乱立する『地下アイドル』、悲惨な懐事情…」	Web記事・2017	◎	bengo4.com/c_23/n_6194
21	文春オンライン（事件回顧記事）	Web記事・2024	◎	bunshun.jp/articles/-/77130
D. 論考・当事者系				
22	かべのおく（地下アイドルファン）	note・2024	◎	note.com/kabenok017/n/n1592a95234cc
23	bxjp（ライター）「『地下アイドル』という言葉はいつどのように使われはじめたのか」	note・2016	◎	note.com/bxjp/n/nea9821d571fd
24	なかやけんた（アイドル文化考察）	note・2019	◎	note.com/jpn_idol/n/nc8b3e784f88d
25	乙川杏珠（元地下アイドル）	note・2022	◎	note.com/ange_0619/n/nf445cb6602b8
26	kamaidol（アイドルファン）「地下アイドルと地上アイドルの境目」	はてなブログ・2019	◎	idol-consideration.hatenablog.com（2019/07/22）
27	な（アイドルファン）	note・2024	◎	note.com/zakkan_zakki/n/nb59d8db376a9
28	姫乃たま 講演録（ログミー）	講演録・2017	◎	logmi.jp/business/articles/250635
29	SONITO（業界観察）	note・2024	◎	note.com/haruki816/n/n1d1b3498e3ad

補記：個人の論考・ブログは、通常の事実確認の情報源としてではなく、「この言葉が実際にどう定義・使用されているか」を示す資料として収載しています。△印の書籍・雑誌・新聞は二次資料経由の確認のため、論文への引用時は原本・原紙のご確認をお願いします。